

平成 27 年度石見銀山基金事業の選定結果について

平成 27 年 6 月 6（土）に開催した石見銀山基金事業公開審査会により、平成 27 年度 7 月以降に実施する石見銀山基金事業について、候補事業（要望事業）の公開プレゼンテーションと審査を行った。

今回、審査の対象となったのは、一般事業 2 次に 5 団体、一般事業初挑戦枠に 3 団体の合計 8 団体から要望のあった 8 つの事業で、審査の結果、8 事業すべてが基準点以上の評価を受け、石見銀山基金事業として選定された。

以下、関連資料

- ・ 石見銀山基金事業選定委員会委員名簿
- ・ 一般事業リスト
- ・ 一般事業初挑戦枠リスト
- ・ 一般事業 選定結果
- ・ 一般事業初挑戦枠 選定結果
- ・ 各選定基準

■石見銀山基金事業選定委員会委員名簿

(任期：平成 25 年 6 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

氏名	職業・所属団体・役職	備考
渡邊 一正	NPO 市民文化財ネットワーク鳥取 理事長	委員長
久保田 典男	島根県立大学 准教授	副委員長
高須 佳奈	島根大学 地域課題学習支援センター 副センター長 講師	
榑 恒雄	大田商工会議所 前専務理事	
椿 真治	島根県教育庁文化財課 調整監	
青木 裕志	大田市 副市長	

※石見銀山基金事業公開審査会（平成 27 年 6 月 6 日開催）
（出席）渡邊委員、久保田委員、榑委員、椿委員、青木委員

■ 一般事業リスト

事業項目	申請団体名	事業名	事業概要	申請団体が目指す効果(目的)
一般事業 2次	NPO 法人 緑と水の連 絡会議	石見銀山 世界 遺産を守る森づく り グリーンボラ ンティアツアー	森林(竹林)整備を軸としたグリーンボランティアツアーの企画と募集、森林整備作業(伐採竹の活用)及び参加者への石見銀山ガイダンス、国際ワークキャンプを3回実施する。竹林景観整備対象地区として、「仙の山石銀地区」・「清水谷精錬所跡トロッコ道」・「温泉津往還(西念寺裏)」である。	竹林整備では、市民ボランティアの人海戦術で作業効果が高く、繁茂する竹の伐採で遺構地形が見えるようになるなど遺跡周辺の森林景観が向上し、保全に携わったという思い出や竹資源の活用で、石見銀山のファンを増やすことができる。
	NPO 法人 プロジェクト ゆうあい	石見銀山のバリア フリーまち歩き 情報の発信事業	バリアフリーまち歩き情報フリーペーパー「てくてく日和」は平成25年1月を創刊号として、季刊のペースで制作、発行する媒体である。内容は、フルカラーで20ページ程度の構成とし、大森地区、温泉津の主要な施設のバリアフリー情報を障がいのある人に現地調査をふまえて、写真を多用して分かりやすく紹介するものである。 2年ほど前に制作発行している石見銀山特集に対して、熊谷家住宅や大森の町並み全体、新たな飲食施設などを中心に紹介していく考えである。また、視覚障がい者のスタッフが現地取材に同行することで、目の不自由な人にも楽しめる石見銀山という新たな視点を加える。ホームページからはテキスト情報を掲載することで、視覚障がい者が音声読み上げパソコンによって、その内容を聞くことができるようにする。	石見銀山を旅行する方には、車いすの使用者を含めて多様な障がい者が訪れているが制作したフリーペーパーを活用することで、これらの障がいのある方に対してバリアフリーに関する必要情報を提供することができる。 例えば、車いすの方が大森のまちなかを散策するときに段差や坂道がないかどうか、お店においては、入り口にスロープなどの対応がなされているかなどである。 目の不自由な人にとっては、触れる、声の案内が聞けるなどどのようなスポットを楽しむことができるかを伝えることができる。
	石見銀山の 景観を考える 会	アートイベント開 催による石見銀 山の価値への気 づき	銀山基金を活用して石見銀山の森林の調査研究とその成果を地域の小学生、ガイドの会の方などに広く伝える取り組みを継続している。 今回はアートイベントを通じて石見銀山の歴史をものがたる要素をうかびあがらせる試みである。大森から銀山にかけて、間歩、樹木、石造物、建造物など石見銀山の歴史の証である様々なものが点在しているが、中には漫然と歩けば見落としてしまいがちなものもある。アートイベントでは、野外空間を使ってアート作品を展開する。地域の人を対象に大森町から銀山地区のエリアで「ゴブリン(いたずら好きの妖精)」を作成し、写真撮影をして記録に残す。「ゴブリン」には「モノ」がもつ潜在的な「ちから」を目に見える形にする効果がある。イベントへの参加を通して、石見銀山の価値を顕在化させ、それに気づく効果がある。地域での活動は大田市石見銀山課の指導のもと、遺跡の保護を最優先に実施する。さらに、参加者(地域の人)がアートイベントで撮影した「石見銀山とゴブリン」の写真展を大森町のまちづくりセンターなど一般の観光客が見ることができる場所で開催する。あわせて、今後の地域活動の参考資料として写真とワークショップをまとめた形の冊子を作成し、関係者に配布する。	地域の方が参加するアートイベントを通してこれらの存在にまず気づくこと、そして展覧会を開催することでワークショップ参加者以外にも広くその価値を知ってもらうことが期待される。

一般事業 2次	石見伝統建築文化研究会	石見銀山周辺域における歴史的建造物の調査	石見銀山の中心域の外側に存在する寺社・古民家など近世から近代にかけて創建され現在に至っている歴史的建造物の調査を行う。 今年度は、昨年度に引き続き、旧大森代官所支配下の6組内に存在する寺社の数量・分布調査を行い、その成果を踏まえ、次年度以降の調査計画を立てる。	寺社の数量と分布調査を主として行い、調査票・リストを冊子としてまとめることで、調査研究の基礎資料とすることができ、この事業（継続事業）において、歴史的建造物の建築年代、建築様式、図面等の調査成果資料をまとめることにより、その歴史的、文化的価値を後世に伝えることができる。また、歴史的建造物の調査によって、例えば指定文化財又は登録文化財を目指せる歴史的建造物のリストを作成でき、文化財的価値を認識できる。
	NPO 法人 しまね歴史文化ネットワークもくもく	「石見銀山三日籠り」2015	大田市において、石見銀山の歴史や生活・文化、あるいは関連する分野をテーマにした講座や遺跡踏査、フィールドワークを組み合わせた3泊4日の滞在型体験講座を開催する。今年は、本来の目的を踏襲しながらさらに深く石見銀山を事例として学ぶ為に、大森町や温泉津まちをステージにして「文化財古民家改修とその活用、および町並みを活かす」をテーマにしたフィールドワークと研修、意見発表を主としたプログラムになる。 また、今回は過去に三日籠りの参加者であった卒業生のキャリアを講座に活かす為に、講師として招いている。 これまで、参加者による石見銀山の情報発信を図って開催してきたが、事業効果が長く持続するためには、参加者が単なる観光客としてではなく、より地域に受け入れられる信頼関係が気付かれることも重要である。今回のプログラムでは、参加者がワークショップで得た成果を住民にも発表し、今後のまちづくりの参考としてもらえるような時間も設ける。また、地元住民からもこの講座が石見銀山のみならず、他地域の資源や歴史・文化を知る場となることも望まれている。	期間中に来訪する観光客や地元民にも講座会場を公開して聴講を促し、広く情報が広がることを期待する。

■ 一般事業初挑戦枠リスト

事業項目	申請団体名	事業名	事業概要	申請団体が目指す効果(目的)
一般事業 初挑戦枠	子どもたちに 石見銀山の魅 力を伝える会	石見銀山で竹 の楽器を作っ てならそう	石見銀山遺跡の保全上の課題とされる「竹」を用いた楽器を制作し、それを用いて演奏する、主に小学生を対象とした事業である。あわせて、石見銀山遺跡の価値や、竹の繁茂による遺跡への影響を講師が紹介し、子どもたちと意見交換する場を設けるものである。	学校現場で行われている「石見銀山学習」との円滑な接続が期待できる。市内小中学校では、総合的な学習の時間や社会科の学習において、石見銀山学習が展開され、一定の成果が出ているが、授業時間数や移動手段等の制約があり、主体的・継続的な学びにつなげていくには諸課題がある。石見銀山学習を、より効果的で主体的な学びにしていくなめには、石見銀山遺跡やこれにかかわる学習施設、そして遺跡や景観を保護継承しようと努力されている地元の方々との交わりの場を、市民レベルでも提供していく必要があり、本事業はこの一助となり得る。 子どもたちの、石見銀山遺跡への内なる興味関心を喚起することができる。はじめから石見銀山にかかわる学習課題を与えるのではなく、低中学年の頃から石見銀山エリアの「ひと、もの、こと」に自然にふれあわせていくことで、学校現場での学習時期に、自分たちの中から学習課題やねがいがわき上がってくるような環境づくりを図る。 石見銀山遺跡とかかわりの深い「竹」を素材にした活動により、竹林被害や、やなしお道の工法など、石見銀山遺跡の理解につながる学習を体験的に行うことができる。
	温泉津女子会	温泉津女子会 フリーペーパ ープロジェクト	2017 年の石見銀山世界遺産登録 10 周年にむけて、新たな観光客誘致とそれに伴う魅力ある地域づくりの活動を女性の視点・観点からおこなっていく温泉津女子会を発足した。 まずスタートとしてフリーペーパーを発行し、温泉津町内外へむけて情報発信を行っていく。	温泉津町の活性化や魅力が伝わることによる観光客の増加、地元の特産品の紹介による売り上げアップ、事業を継続していくにつれ協力者を増やし、地元の特産品を活かした新たな土産品の開発。

一般事業 初挑戦枠	温泉津ヘルス ツーリズム協 議会	温泉津ヘルス ツーリズム推 進事業	後世に引き継ぐ世界遺産石見銀山を来訪者に対して、単に歴史解説だけでなく、世界遺産エリア及び関連地域を健康ウォーキングや海洋療法(タラソセラピー)等の手法を交えることで持続可能な遺産の活用を図る。いにしえより湯治で栄えた温泉津ではストレス社会に生きる現代人の心身を癒し、同時に美容効果へも配慮する地でありたいと考えている。 人は誰でも、いきいきと健康で暮らしたい。その願いは今も昔も変わりません。豊かな自然や世界遺産の魅力に人類不変の願いである健康づくりの要素を付加することによって心身に様々な効果が期待されることで、参加促進と遺産への理解がより深まる相乗効果を期待している。具体的にはセラピスト(ガイド+気候療法士)の指導のもと、毎週水・日曜日に行う早朝ウォーキング、月に一度の割合で実施する健康ウォーキング等を通じて、石見銀山街道や歴史的な街並みを分かりやすく解説し世界遺産の歴史や自然の中に身を委ねることで脳の活性化、心肺機能の向上、筋力や関節の低下予防、ストレスの軽減等が図られることを年間通じて体験するヘルスツーリズムを推進する。	Living heritage 換言すれば持続可能な観光等の利用(ヘルスツーリズムの展開)は遺産の保全と価値の認識およびリピートによる個人の健康増進、ひいては医療費等の節減、来訪者の増加等、保全と活用を表裏一体的にすすめることが地域の課題解決に繋がるものと捉えている。 SNS 連動のインターネット HP を立ち上げる一方、チラシ等による地域住民への周知と併せた広報宣伝活動を充実することで、下記に掲げる効果と目標を達成する前提となる、事業への理解が効果的に進められ、より多くの参加者が得られるものと考える。 (1) 持続可能な観光地の利用により世界遺産石見銀山を後世に引き継ぐ意識の醸成と保全 (2) 着地型旅行商品造成による宿泊者、観光客等交流人口の増大(産業振興面) ・温泉津温泉はじめ世界遺産・重伝建の街並みと石見銀山街道沖泊、神楽、よずくはで、日祖海苔、西田葛、温泉津焼き他豊かな地域資源を生かした健康ウォーキング等による宿泊滞在者・日帰り観光客の増大による地域経済効果 ・地域食材を活かした弁当・特産品普及による地域経済効果 ・セラピスト(ガイド&健康づくり指導)養成による雇用機会創出効果 ・将来的には UI ターン促進等の定住化の奨励に結びつける効果 (3) 住民の健康づくりと予防医療の重要性浸透(保険・福祉・医療) ・予防医療の充実による健康づくり及び介護予防・医療費等の減少効果 ・市立病院を含む地域医療体制の充実効果 (4) まちづくり・生涯学習活動の振興充実(地域振興・教育) ・地域資源(自然歴史文化)の再発見による誇りと愛着心醸成 ・ウォーキング活動等の推進による社会体育の振興
--------------	------------------------	-------------------------	---	---

■ 一般事業 選定結果

事業項目	申請団体	事業名	評価点	採否 採 択 ○ 不採 択 ×	備考
			平均点（100 点満点）		
一般事業	NPO 法人緑と水の連絡会議	石見銀山 世界遺産を守る森づくり グリーンボランティアツアー	78.4	○	
	NPO 法人プロジェクトゆうあい	石見銀山のバリアフリーまち歩き情報 の発信事業	79.2	○	
	石見銀山の景観を考える会	アートイベント開催による石見銀山の 価値への気づき	69.0	○	
	石見銀山伝統建築文化研究会	石見銀山周辺域における歴史的建造物 の調査	77.2	○	
	NPO 法人しまね歴史文化ネット ワークもくもく	「石見銀山三日籠り」2015	83.6	○	

※ 平均点の6割（60点）以上の点数を獲得した団体の中から、獲得点数の高い順に選定（事業採択）

■ 一般事業 初挑戦枠 選定結果

事業項目	申請団体	事業名	評価点	採否 採 択 ○ 不採 択 ×	備考
			平均点（100 点満点）		
一般事業 初挑戦枠	子どもたちに石見銀山の魅力を伝える会	石見銀山で竹の楽器を作ってならそう	76.0	○	
	温泉津女子会	温泉津女子会フリーペーパープロジェクト	72.0	○	
	温泉津ヘルスツーリズム協議会	温泉津ヘルスツーリズム推進事業	71.6	○	

※ 平均点の 6 割（60 点）以上の点数を獲得した団体の中から、獲得点数の高い順に選定（事業採択）

■一般事業 選定基準

選定委員会は、次の評価項目について審査し、総得点の6割以上の点数を獲得した団体から順次、獲得点数の高い順に選定事業に選定します。

（１）評価項目及び評価の着眼点

評価項目	評価の着眼点	最高点
①継承性	I 地域の新しい価値の発掘・創造や地域共通の課題の存在を認識し解決を図る取組か。 II 未来の世代に良好な地域環境や地域社会をもたらす取組か。 III 目的を共有する誰もが参加できる組織による取組か。	10
②必要性	I 社会情勢に応じてニーズが高い事業か。 II 取り組む必要性が明確な事業か。	10
③社会的公益性、地域貢献性	I 広く地域、社会に貢献する活動か。 II 広く公開された事業か。 III 応募団体の構成員や特定の個人、団体が対象となる利益事業か。 IV 実施事業が団体で完結するのではなく、地域や住民との連携を伴うものか。 V 事業内容が地域課題の解決や活力の創出等に貢献する内容か。	10
④発展可能性	I 今後、その成果の広がりを期待できる活動か。 II 次世代の育成につながる活動か。 III 今後、継続して取り組める体制、計画か。 IV 自主財源の確保が可能か。	10
⑤実現可能性、団体の事業遂行能力	I 実施体制、事業計画（規模・内容）、資金計画（財源や用途）、スケジュール等無理のない実現可能な活動か。 II 応募団体が企画及び事業遂行能力を持っているか。	10
⑥石見銀山らしさ	I 石見銀山の歴史、文化、自然、社会基盤等を活かす事業か。 II 石見銀山の新たな価値を見出し、地域への誇りを醸成する取組か。	10
⑦事業の新規性、実効性	I この地域に新たに価値を付加する事業内容か。 II 新たな視点、発想、工夫やアイデアの企画、提案で独創性や創造性を感じられるか。 III 事業が具体的かつ実効性を持つものか。 IV 実施により想定される効果が期待できるか。 V 費用に対しての効果が認められるか。	10
⑧団体の広報力	応募団体が事業実施の際し、十分な事業告知を行い基金活用の趣旨を伝えるか。	10
⑨プレゼンテーション	プレゼンテーションにおいて、的確かつ魅力的に事業を説明できたか。	10
⑩費用の妥当性	活動の内容に見合った経費見積もりとなっているか。	10

（２）評価方法

（１）の評価項目毎に別に基準を設けて、11段階評価で行います。

（各選定委員の最高点：10項目×10点＝100点）

■一般事業 初挑戦枠 選定基準

選定委員会は、次の評価項目について審査し、総得点の6割以上の点数を獲得した団体から順次、獲得点数の高い順に選定事業に選定します。

（１）評価項目及び評価の着眼点

評価項目	評 価 の 着 眼 点	最高点
①公益性	I ニーズが高い事業か。 II 幅広く地域、社会に貢献する活動か。 III 個人や団体の利益事業ではないか。	30
②石見銀山らしさ	I 石見銀山の歴史、文化、自然、社会基盤等を活かす事業か。 II 石見銀山の新たな価値を見出し、地域への誇りを醸成する取り組みか。	20
③事業の斬新さ	I この地域に新たに価値を付加する事業内容か。 II 新たな視点、発想、工夫やアイデアの企画、提案で独創性や創造性を感じられるか。 III 事業が具体的かつ実効性を持つものか。 IV 実施により想定される効果が期待できるか。 V 費用に対しての効果が認められるか。	50

（２）評価方法

（１）の評価項目毎に別に基準を設けて、評価を行います。

（各選定委員の最高点：100点（3項目））